

岩手山の火山活動解説資料（令和6年4月）

仙台管区气象台
地域火山監視・警報センター

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められません。
噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）の予報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・噴気など表面現象の状況（図1、図3-①⑤）

柏台監視カメラによる観測では、黒倉山山頂、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められませんでした。今期間、噴気活動に特段の変化はなく低調に経過しました。

・地震や微動の発生状況（図2、図3-②～④⑥）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

3日に振幅の小さな火山性微動が1回発生しました。火山性微動が観測されたのは2012年10月27日以来です。火山性微動の発生前後で、その他の観測データに特段の変化は認められませんでした。

・地殻変動の状況（図4、図6）

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

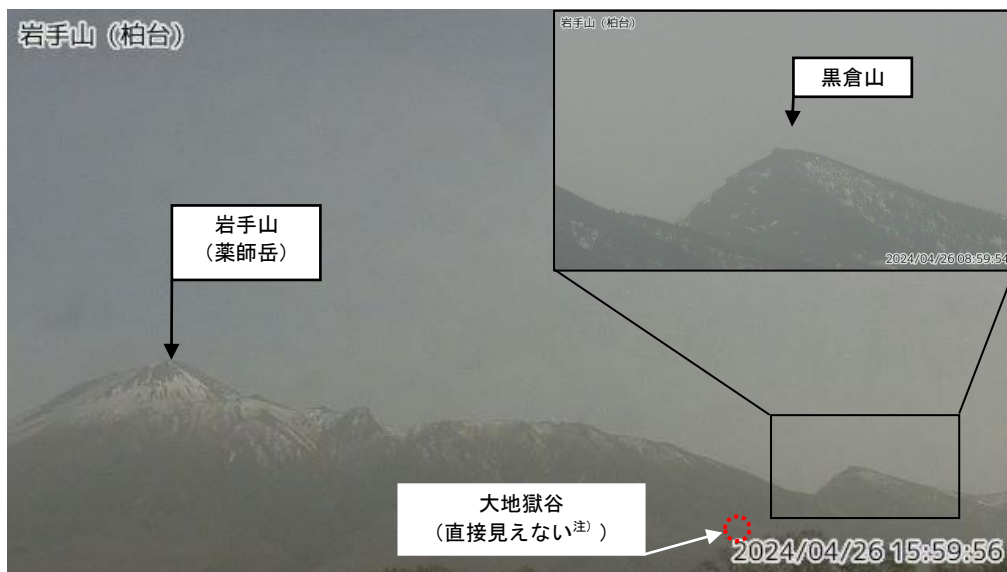


図1 岩手山 山頂部から黒倉山周辺の状況（4月26日）

・柏台監視カメラ（黒倉山山頂の北約8km）の映像です。

注）大地獄谷からの噴気は、高さ200m以上のときに柏台監視カメラで観測されます。
赤破線が大地獄谷の位置を示します。

黒倉山山頂、岩手山山頂及び大地獄谷の噴気は認められませんでした。

この火山活動解説資料は気象庁ホームページで閲覧することができます。

https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

次回の火山活動解説資料（令和6年5月分）は令和6年6月10日に発表する予定です。

資料で用いる用語の解説については、「気象庁が噴火警報等で用いる用語集」を御覧ください。

<https://www.data.jma.go.jp/vois/data/tokyo/STOCK/kaisetsu/kazanyougo/mokuji.html>

この資料は気象庁のほか、国土地理院、東北大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成しています。

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院発行の「数値地図50mメッシュ（標高）」を使用しています。

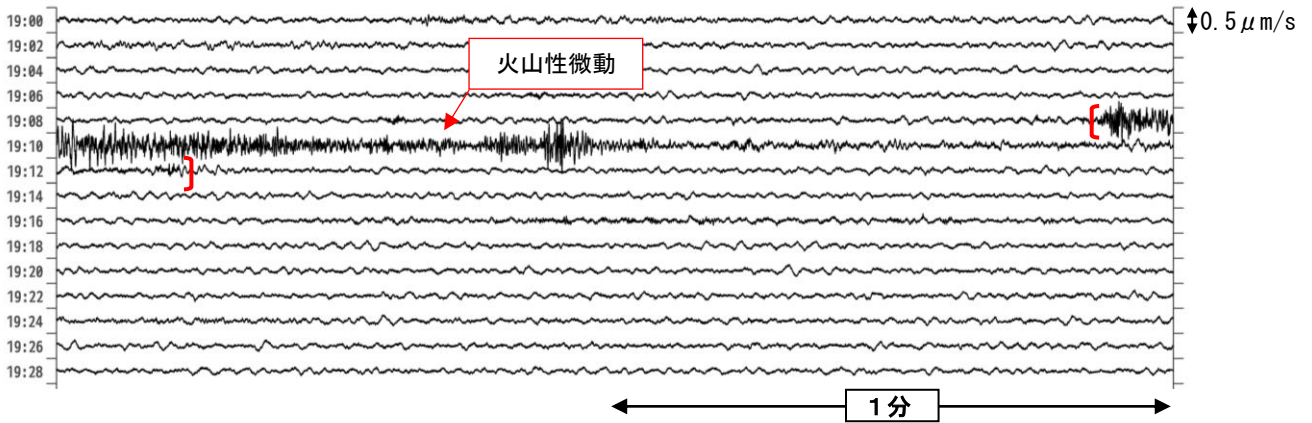


図2 岩手山 松川（防災科学技術研究所）観測点（上下成分）での火山性微動の発生状況（2024年4月3日19時00分～19時30分）

- ・ [] は火山性微動の発生時を示します。

3日に火山性微動が1回発生しました。継続時間は2分23秒、松川（防災科学技術研究所）観測点（岩手山山頂の西北西約7km）の最大振幅は $0.54 \mu\text{m/s}$ でした。なお、火山性微動発生に伴う傾斜変動は認められませんでした。

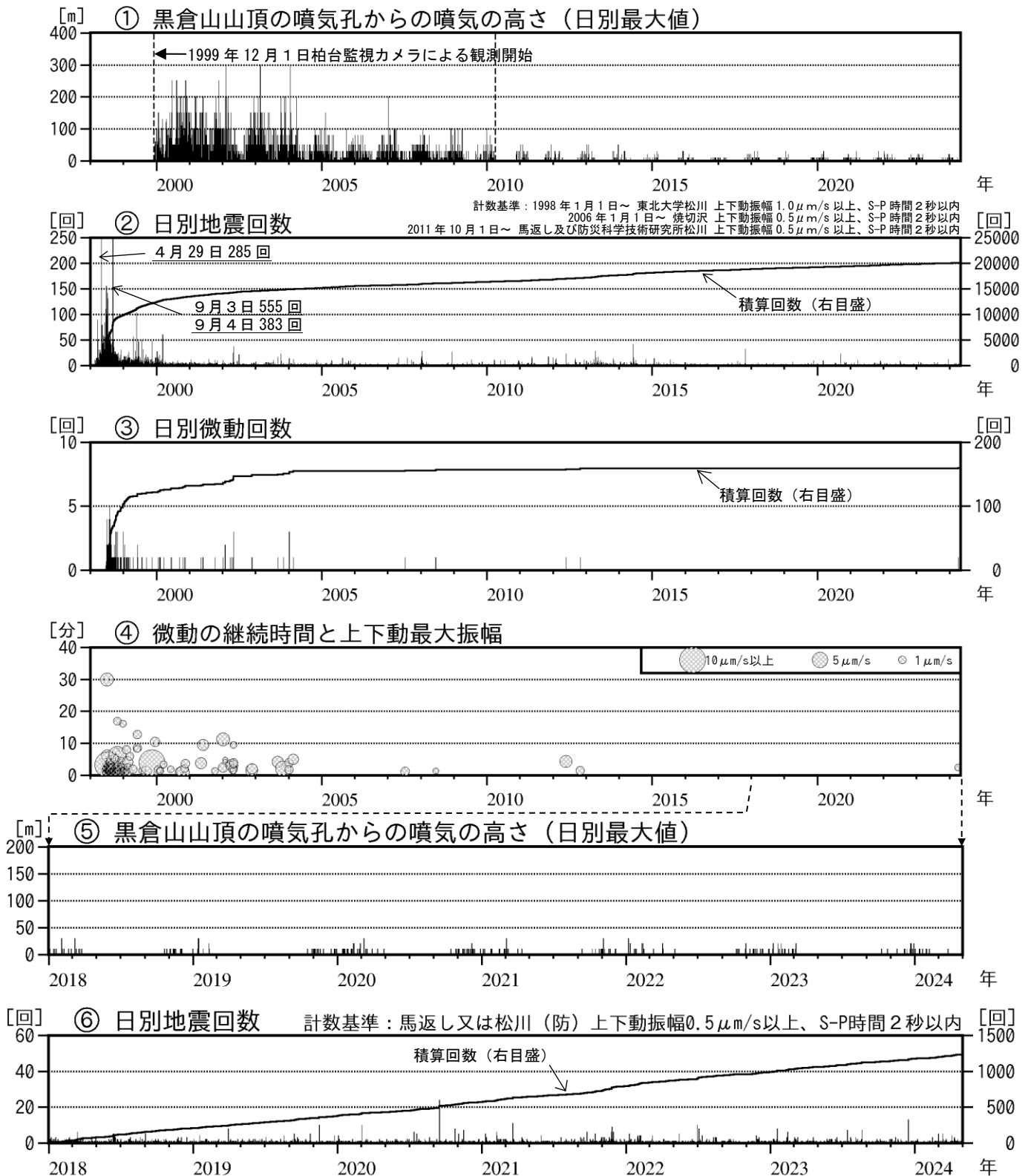


図3 岩手山 火山活動経過図（1998年1月～2024年4月）

- ・①⑤2010年3月までは黒倉山のみ観測値を、2010年4月1日以降は岩手山全体の観測値を示しています。
- ・②2000年1月以降は滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を除外した回数です。（1998年から1999年までは滝ノ上付近の地震など山体以外の地震を含みます）

火山性地震は少ない状態で経過しました。

3日に火山性微動が1回発生しましたが、最大振幅は小さく、継続時間はこれまで観測したものの中ではよく見られる程度でした。その他の観測データに特段の変化は認められませんでした。

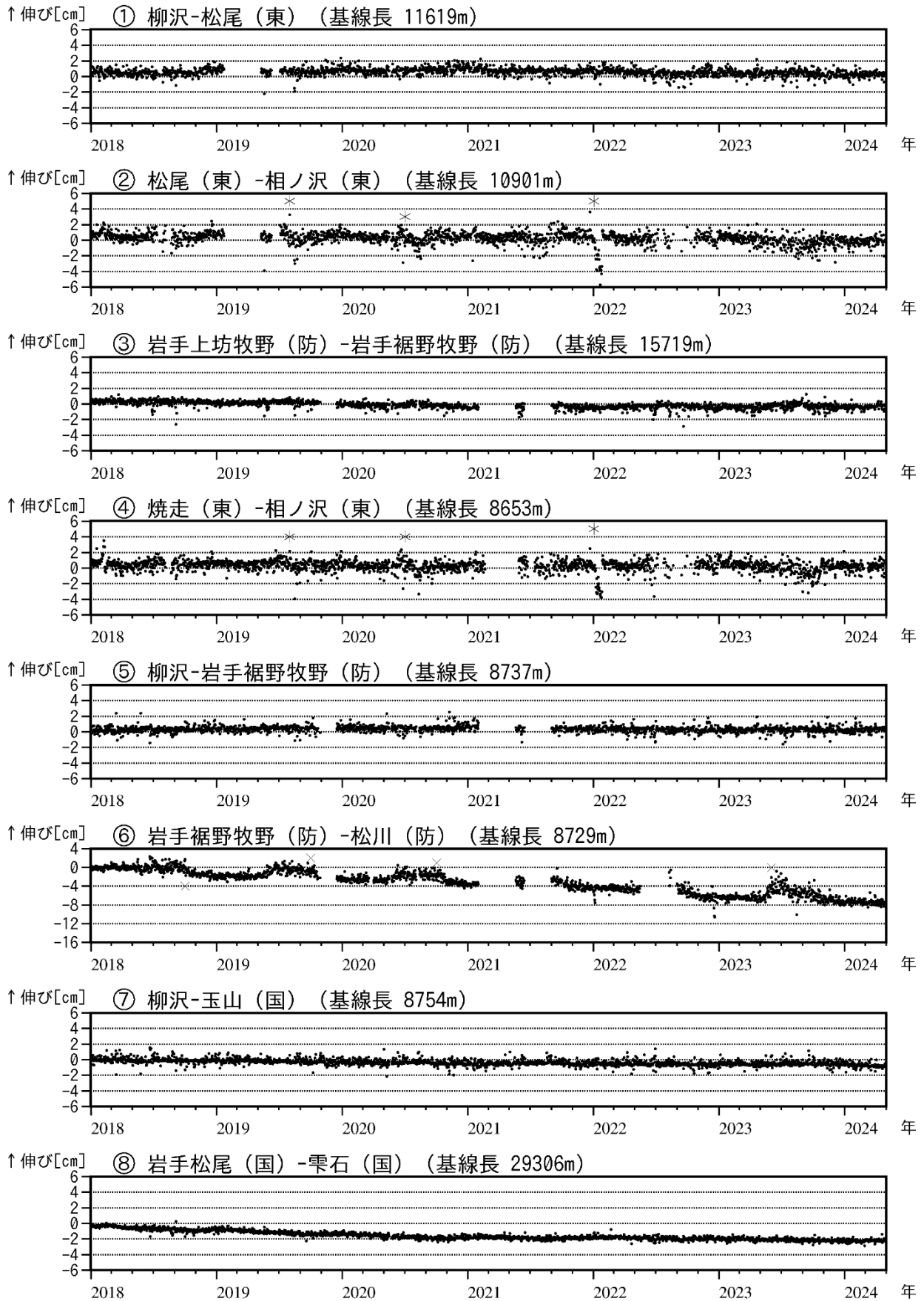


図4 岩手山 GNSS 基線長変化図 (2018年1月~2024年4月)

- ・①~⑧は図6のGNSS基線①~⑧に対応しています。
- ・空白部分は欠測を示します。
- ・(国)は国土地理院、(東)は東北大学、(防)は防災科学技術研究所の観測点を示します。
- ×：松川(防)観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。
- *：相ノ沢(東)観測点に起因する変化で、火山活動によるものではないと考えられます。

火山活動によると考えられる変化は認められませんでした。

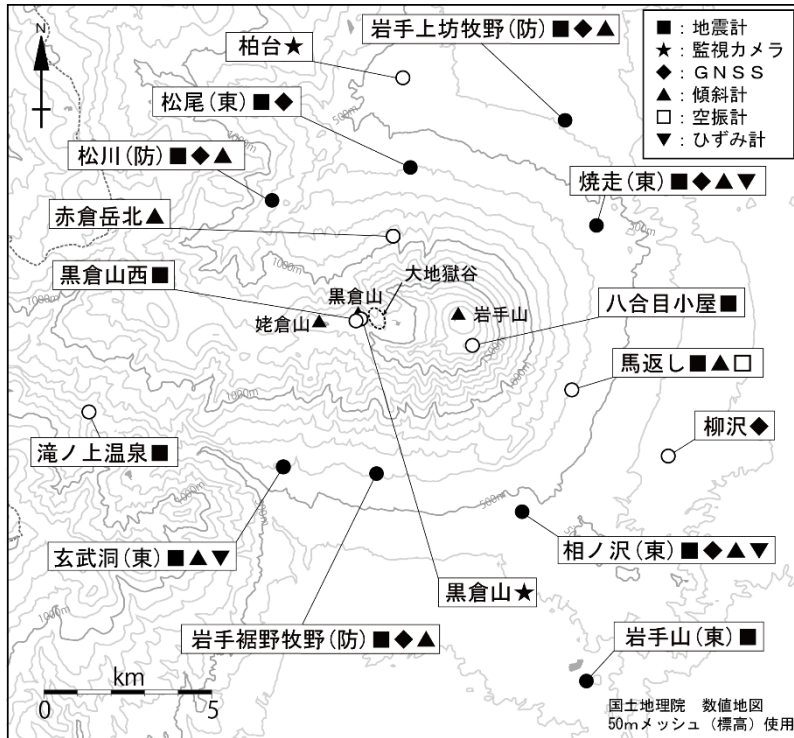


図5 岩手山 観測点配置図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（東）：東北大学 （防）：防災科学技術研究所

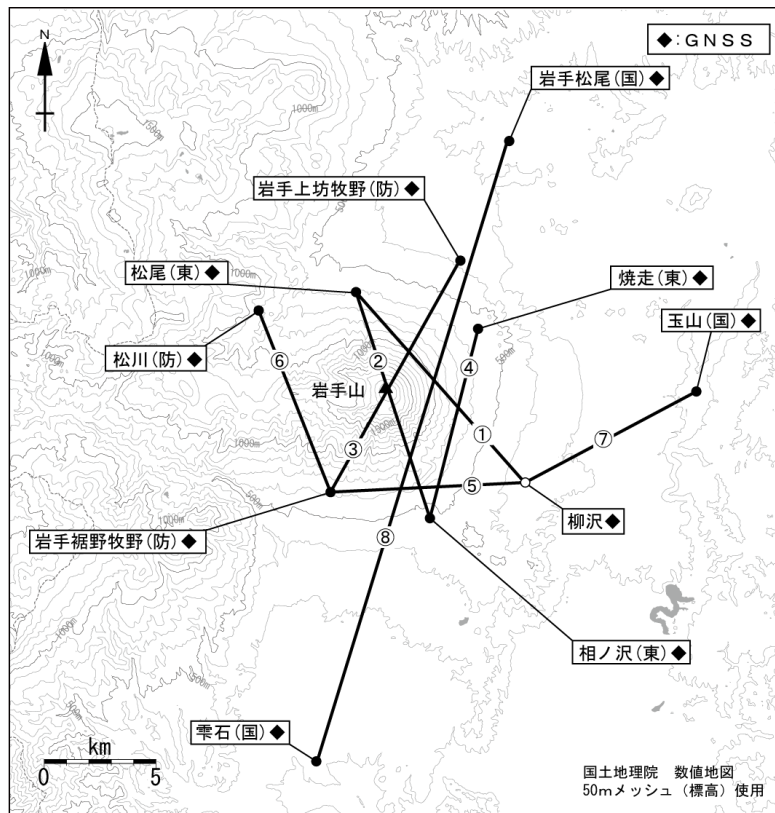


図6 岩手山 GNSS 観測基線図

白丸（○）は気象庁、黒丸（●）は気象庁以外の機関の観測点位置を示しています。

（国）：国土地理院 （東）：東北大学
（防）：防災科学技術研究所